

卓 話

平成 23 年 10 月 25 日

『垂井の魅力再発見』

垂井町観光協会長
早瀬正敏様

<観光でまちづくりの協働を>

私は垂井町長から推薦いただき、本年 4 月から垂井町観光協会長に就任しました。

協会ができて 50 年以上になりますが、民間人が登用されるのは初めてとのことで、私にとってもこれまで経験したことのない新分野へのチャレンジです。

また、垂井町では本年度より「まちづくり基本条例」が施行されたこともあって、住民と行政の協働により「観光によるまちづくり、まちおこし」を実現したいものです。

そのため住民に協会への加入を呼びかけ、様々な経験や専門性をもつ会員を増やす努力をはじめています。

<歴史と文化がポイント>

垂井町には①風光明媚な景観、②温泉施設、③地域独自のグルメなど、普通の観光地が持っているような魅力は残念ながらありません。

しかし、垂井町を含む西美濃地域は、西に伊吹の霊峰を仰ぎ、東に開けゆく濃尾平野を望む、豊かで戦略的な立地条件にあります。古代より東西交通の要衝として、美濃国の国府が置かれ、東山道、中山道を通じた人の往来と物資の交易に寄与することで発展してきました。ご承知のとおり、この地域は壬申の乱（西暦 672 年）や関が原合戦（西暦 1600 年）でも重要な役割りを果たしました。

こうした背景のもと、垂井町には歴史遺産や文化財が豊富で、大変魅力的です。

町内各地区の祭りの伝統も継承努力が行われており、住民みずから町の魅力を再発見し、深く学んで「情報発信」や「おもてなし」に役立てられるように、歴史講座や勉強会を開催したいと考えています。

<オール垂井で竹中半兵衛公を>

豊臣秀吉の軍師として名高い「竹中半兵衛重治」（西暦 1544 年誕生）は、父重元（しげちか）と共に岩手弾正に代わってこの地を治め、菩提山上に山城を築きました。20 歳の頃、主君斎藤龍興を諫めるため、僅か主従 18 騎で稲葉城を占領。織田信長からの誘いを断り、隠居生活に入ったものの、「三顧の礼」によって羽柴秀吉に迎えられ、三木城攻めの最中に 36 歳の若さで病死するまで幾多の戦いで功績を挙げました。

町内には禅幢寺境内に半兵衛公の墓、竹中氏陣屋跡、藩校の名残りである菁莪記念館が残され、訪れる人が絶えません。

菩提山にはハイキングコースが整備されており、頂上（402 メートル）からは遥かに岐阜市の金華山が遠望され、半兵衛公の思いに浸ることができます。

また、本年 10 月 22 日から 12 月 11 日まで、町内のタライピアセンター（図書館・歴史資料館）におきまして「郷土の武将 竹中半兵衛」企画展が開催中です。

タライピアセンター

＊ 場 所：岐阜県不破郡垂井町 2443-1

＊ 電 話：0584-23-3746

<垂井宿が岐阜の宝もの認定プロジェクトに>

平成 19 年度から岐阜県の提唱でスタートした「飛騨・美濃じまん運動～岐阜の宝もの認定プロジェクト」に応募しましたところ、「中山道と美濃路の追分～垂井宿」が岐阜県じまんの「原石」に認定されました。

この原石をブラッシュアップして宝ものにしていくため、垂井町商工会をはじめ観光関係の諸団体と共に「垂井宿にぎわい推進協議会」を立ち上げ、常ににぎわいがある垂井宿として生まれ変わるべく活動を開始しています。宿場内におもてなし処「たるい庵」を設けて観光案内を行っています。

是非ともこの機会に垂井町の魅力再発見にお越しいただきますようお願いしております。

